

2013.7.18

vol.25

シネマ・ド・りぶらの コラム・ド・シネマ

映画を読む

映画を聞く

次回(第26回)上映会のご案内

父と暮らせば



戦後の広島で、原爆から独り生き残った後ろめたさから自らの幸せを拒否して生きる娘と、幽霊となり彼女の恋を懸命に後押しする父との、4日間の交流を優しく綴ったヒューマン・ドラマ。「TOMORROW 明日」「美しい夏キリシマ」に続く、黒木和雄監督の“戦争レクイエム三部作”完結編。

監督・脚本：黒木和雄

原作：井上ひさし

出演：宮沢りえ、原田芳雄、
浅野忠信

製作：2004年 日本

上映時間：99分

昭和20年8月6日、午前8時15分、広島に原子爆弾が投下された。それは一瞬にして多くの命を奪った。3年後の広島。図書館に勤める美津江も、愛する人たちを原爆で失い、自分だけが生き残ったことに負い目を感じながらひっそりと暮らしていた。そんな彼女はある日、図書館で一人の青年、木下と出会う。

2人は互いに惹かれるものを感じるが、美津江は“うちはしあわせになってはいけんのじゃ”と自らの恋心を必死で押さえ込んでしまう。見かねた彼女の父・竹造は幽霊となって姿を現わし、“恋の応援団長”を名乗り懸命に娘の心を開かせようとするのだが…

< allcinema >

★日 時 **8月22日(木)**

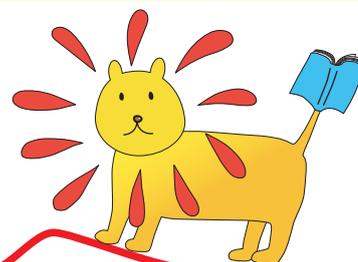
① **10:30 ~** 開場：10:00

② **14:00 ~** 開場：13:30

★場 所 **りぶらホール**

★定 員 **各回280人** (全席自由)

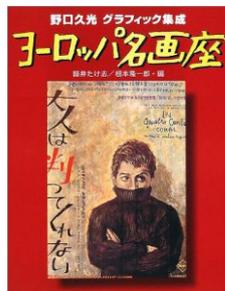
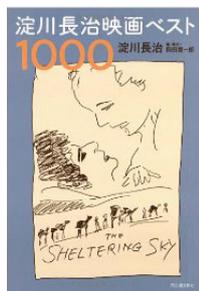
★主 催 **岡崎市立中央図書館
りぶらサポータークラブ**



りぶらいおん©LSC

映画を読む 『禁じられた遊び』

監督	『20 世紀の映画監督名鑑 (Mook21)』		共同通信社	N778.2
	『居酒屋』		アイ・ヴィー・シー	778.235
原作	『禁じられた遊び』	フランソワ・ボワイエ	河出書房新社 角川文庫	953
評論	『外国映画ぼくのベストテン 50 年』	双葉 十三郎	近代映画社	778.2
	『淀川長治映画ベスト 1000』	淀川 長治	河出書房新社	943.6
	『アカデミー賞のすべて』	BSfan mook21	共同通信社	778.253
	『20 世紀の映画』	Mook21	共同通信社	N778.2
	『名作はあなたを一生幸せにする』	淀川 長治	近代映画社	N 778.0
	『古き良き時代の外国映画』	本吉 瑠璃夫	文芸社	N 778.2
	『わがフランス映画誌』	山田 宏一	平凡社	778
アート	『ヨーロッパ名画座 野口久光グラフィック集』	筒井 たけ志	朝日ソノラマ	778.23/
フランス	『現代フランスの病理解剖』	長部 重康	山川出版社	302.35
	『現代のフランス』	フランス外務省	原書房	302.35
音楽	『知ってるようで知らない 映画音楽おもしろ雑学事典』	大日方 俊子	ヤマハミュージック メディア	778.04
	『珠玉のギター名曲集』	ゴメス・ウィリアム	Decca	1D キ
	『カタロニア讃歌 鳥のうた / 禁じられた遊び』	鈴木 大介 / 演奏	Bellwood Record	1E ス
	『スカイラーク』	デスモンド・ポール	CTI Records	2B テ
	『やさしく弾けるスクリーン ピアノ・ソロ・アルバム』		ケイ・エム・ピー	763.2



<p>『禁じられた遊び』 フィルムデータ</p>	<p>原 題：JEUX INTERDITS 製作年：1952 年 製作国：フランス 住 様：モノクロ 時 間：87 分</p>	<p>スタッフ： 監督：ルネ・クレマン 原作：ランソワ・ボワイエ 脚色：ジャン・オーランシュ / ピエール・ボスト / ルネ・クレマン 音楽：ナルシソ・イエペス</p>	<p>キャスト： ブリジット・フォッセー ジョルジュ・プージュリー リュシアン・ユベール ジョザンヌ・ケールタル ジャック・マラン</p>
------------------------------	---	--	---

「自分の体験とも重なり…」

この映画の冒頭は、1940年ナチスによるパリ占領によって、パリを逃れようとする避難民に襲いかかるドイツ軍機の機銃掃射の場面から始まる。このシーンを見るたびに、私の子供時代の一シーンが思い出される。というのは、友だち数人と、夏休みに近くの川に水遊びに行った帰り道、前方から飛行音が聞こえてきた瞬間、先輩が「敵機だ！ 畑に逃げろ！」と叫び、全員が横のトマト畑に飛び込んだ直後、歩いていた道に艦載機からの機銃掃射があり、一命が救われた記憶があるからだ。このシーンには、いつもショックを受ける。

映画では、ポーレットをかばった両親と愛犬が死ぬ。ポーレットは冷たくなった母親の頬に触れるが、あまりのことに涙ひとつ流せない。5歳のポーレットには死の実態がわからず、悲惨なシーンを無邪気な可愛らしい演技で涙を誘われた。孤児となったポーレットは農家の少年ミシェルと出会い、少年のドレ家で暖かいふれあいのある生活を送る。しかし、信心深い少年であるミシェルが愛犬のお墓をつくることにより、二人は禁じられた遊びである十字架集めに夢中になる。

ある日、ポーレットを孤児を保護する施設へ連れていくために警官が訪れる。ミシェルは父親に、ポーレットを家に残す約束で十字架の場所を教えるが、ポーレットは警官に引き渡される。大人への不信とポーレットを失う絶望で、ミシェルは集めた十字架を泣きながら川へ投げ込んでしまう。ポーレットは、難民収容所の雑踏の中で「ミシェル！」という叫び声を聞いて飛び出し、やがて「ママ、ママ」とつぶやきながら消えていく。そして、全編に流れるギター独奏による、哀しく美しいテーマ曲。

国と国が無意味な殺し合いを続けることの悲しさと恐ろしさを、最も弱い立場にいる子どもの姿を通して静かに訴えている反戦映画だと思った。その無意味な争いが、現在でも続いていることにも悲しさを感じる。私個人の希望としては、「禁じられた遊び、パート2」を作成していただきたい。ポーレットとミシエルのその後の人生が映画化されることを希望する。 S.N

「もうひとつのラストシーン 原作を読む」

『禁じられた遊び』はフランソワ・ボワイエが1947年に文学作品として発表しました。この作品はフランス国内のみでなく、世界中に大きな反響を呼び、17カ国で翻訳され、アメリカだけでも100万部以上売れました。現に、1970年日本で花輪莞爾氏が翻訳のために、手にした原典は2722版という驚くべき数字になっていました。

『禁じられた遊び』はルネ・クレマン監督による映画化とナルシソ・イエペスのギターによる名曲『愛のロマンス』によって世界の映画ファンに支持されました。映画の影に押しやられたフランソワ・ボワイエの『禁じられた遊び』を図書館で借りて読みました。普通、物語の登場人物のイメージは自分で描きながら本を読むわけですが、この映画で観たミシェルとポーレットの印象があまりにも強く、イメージが常に頭の片隅に有りました。原作には、映画では表現できないポーレットのちいさな頭の中で起る、想像の世界と現実の戦争の悲劇が詩的に描かれています。そして、原作に書かれているラストシーンとは……。是非、原作も読んで頂ける事をお勧めします。 au

「胸震わすラストシーン」

この作品、何十年ぶりにDVDで下見したんですが、やはり素晴らしい作品でした。

「冒頭、ドイツ軍戦闘機の機銃掃射が少女の両親の背中を打ち抜くまでの流れ」、「少女の異常なまでの十字架に対する執着を表わす数々のシーン」、「水車小屋での少年と百才？のミズクの触れ合いのシーン」、「少女が孤児院に連れて行かれる途中、『ミシェル、ミシェル・・・』と呟きながら、一人街の雑踏に吸い込まれていくラストシーンに、一言だけ『ママ・・・』という呟きを挟むところ」など、ものすごく練り上げられた数々のシーンに、感動を新たにしました。また、要所に流れるイエペスの切々たるギターの調べには、条件反射的にウルウルになる生理現象を止めることができませんでした。

当時、この映画を観てギターを練習しようと志した人は世界中で相当の数に上ると思いますが、私もその一人です。勇んで練習を始めたのですが、ご他間にもれず『禁じられた遊び』までは届かず、あえなく挫折。就職後、改めてギター教室に通い、いわゆる「愛のロマンス」と呼ばれている始めと終わりのさわりの部分だけは弾けるようになりましたが、中間部はとうとう歯が立ちませんでした。

このさわりの部分、スペインに古くから伝わる民謡だとか、イエペスの作曲だとか諸説あるようですが、最近19世紀後半にスペインのギター奏者アントニオ・ルビラーが作曲した「分散和音の練習曲」が原曲だという説を見かけました。

なお、映画『禁じられた遊び』のテーマ音楽は単一の曲ではなく、「愛のロマンス」のほかヘンデルの「サラバント」、ラモアの「メヌエット」、リョベートの「アメリカの誓い」など、数曲を複合した組曲的なものとらえた方がよいとの説もあります。 K.M.

「ひとつの映画の話題から」

『禁じられた遊び』と聞くだけで、あの音楽と子どもたちの顔が浮かんでくる。ナルシソ・イエペスの哀愁のある音楽は主旋律が分かりやすく、子どもとピアノで音を拾っては弾き楽しんだ。また、主人公のかわいらしい子どもたち・ポーレットとミシエルの表情やしぐさも忘れられない物である。

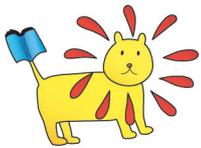
所属している読書会で、『積みすぎた箱舟』ジェラルド・ダレル著と『ユージン・スミス』土方正志著を読む機会があった。写真家ユージン・スミスの『楽園へのあゆみ』の写真を見たとき、明るく向こうへ歩いていく子どもたちの姿が、『禁じられた遊び』の子どもたちと重なった。

先日、美容院で髪をカットしてくれている若いスタッフにこの映画を知っているかと聞いたら、「聞いたことはあるけど・・・」と。私たちの年代だったら、だれでも知っている映画も、若い人たちには縁遠いのだ。でも、そこからおすぎたちが選定委員をして決定した1950~70年代を中心とした洋画の傑作50本『午前10時の映画祭 何度見てもすごい50本』が、2010年2月6日~2011年1月21日の50週間に上映されるという話を教えてもらった。一つの映画から話題が広く広がっていくのを感じることができた日だった。 m.y

※『午前10時の映画祭』は、2013年の今年も開催されています。

『夜の騎士道』(4/18 上映)

- ・とても楽しかった。50 年前に帰ったようです。
- ・B.B. がキュートで可愛かった。女の人達のドレスや帽子がステキでした。室のスタンドグラスとか窓のアンティークさが良かった。
- ・ジェラルド・フィリップの映画ということで楽しみにしていました。美しいですね。当時のフランス映画のエレガンスが今は失われてしまい、ちょっとさびしいです。上質のコメディを久しぶりに見ました。音楽、ドレスや小物にため息でした。すばらしい！！
- ・何十年も前に観まして、懐かしかったです。ジェラルド・フィリップは『赤と黒』の方が立派な感じがしました。フランスの二枚目スターなら、アラン・ドロンの方が迫力があると思います。
- ・昔見そこなった映画ですので大満足です。



B.B. はブリジット・バルドー。
M.M. はマリリン・モンロー。
C.C. は『ブーベの恋人』のクラウディア・カルディナーレ。

『西部の男』(6/20 上映)

この映画主演の時は、ゲイリー・クーパーは確か 39 才と思いますが、大変ハンサムで動きもきびきびしており晩年のクーパーとは動きが違う。それから名脇役のウォルター・ブレナン彼も戦前から戦後にかけて西部劇で悪役、善人役で出演しており、もっとも彼の演技が光ったのはジョン・ウェイン主演の「リオ・ブラボー」1959 年（昭和 34 年）ではなかったかと私は思います。

それから、監督のウィリアム・ワイラーは私の記憶では確かグレゴリー・ペック、チャルトン・ヘストン主演の「大いなる西部」1958 年（昭和 33 年）の監督ではなかったかなと思います。彼は西部劇作品はこの 2 作だと思っています。

さて、映画の中で裁判の場面がありますが西部では、酒場を 1 時間閉鎖して審理する場面が西部劇ではよくあるが考えてみれば裁判所のある町まで 500 ~ 1000km 離れているために巡回判事が来るまで審理を延ばすとか、映画のように 1 人の男が判事を務め、それでトラブルが起きるこの映画はそのストーリーですね。（山田 浩）

最近観た映画について、その他

最近観た映画は、NHK の BS でジョン・フォード監督、ジョン・ウェイン主演の『搜索者』1956 年（昭和 31 年）です。当時劇場で観ましたが改、めて懐かしく鑑賞しました。出演はおなじみのフォード一家のメンバーで、ワード・ボンド、ハリー・ケリージュニア、ジェフリー・ハンター、ナタリー・ウッド、ヴェラ・マイルズ。それから、ジョン・ウェインの次男のパトリック・ウェインがこの映画で初デビュー。私は、この映画が封切りされた時から好きでした。

まず主題歌に哀愁があり、背景は広漠たる荒野。地平線までないにもない所をジョン・ウェインとジェフリー・ハンターが馬に乗り、インディアンにさらわれたナタリー・ウッドを当てもなく探しに行くストーリーです。私はこの映画を観た時、主題歌を当時レコード店で購入し、家の蓄音機で聴いたものでした。

私は 70 才ですが、昭和 25 年に「りぶら」の敷地にあった尺小学校へ入学し、当時康生町界隈は活気があり、人通りも多く映画館もあちこちにありました。特に洋画封切り館は、三菱東京 UFJ 岡崎支店の北側の、現在駐車場になっている所にタカラ劇場があり、東康生町の喫茶コマダの所にセントラル劇場がありました。

昭和 20 ~ 30 年代の康生町一帯は岡崎の繁華街であったため、当時の大人は康生界隈で買い物、或いは映画を観に行き、知り合いに会うと「岡崎へ行ってきた」と言っていました。戦前（昭和初期）の岡崎市区域は、北部は井田町まで、南部は羽根町、東部は欠町、西部は八帖町までであったため、近郊から岡崎の繁華街へ来る人は「岡崎へ遊びに行ってきた」と言っていたのです。現在でも年配の人は、昔の癖で「岡崎へ行ってきた」と言う所以です。それでは、私みたいな町中に住んでいる者はどうかというと、親も私も康生町へ行くことを「町へ行く」と言い、康生町界隈が賑やかいと、「今日は町が賑やかい」と言っていました。

（山田 浩）

年間 2,000 円（1 口）で、
シネマの賛助サポーターになろう !!
いつなるの？

今でしょ！

登録は市民活動センターへ！



皆様の投稿をお待ちしています！ 市民活動コーナー入り口のメールボックスに入れてください。